

日本職業教育学会 第85回 関東地区部会

報告集

2026 年8月8日(土)

於: オンライン

研究会プログラム

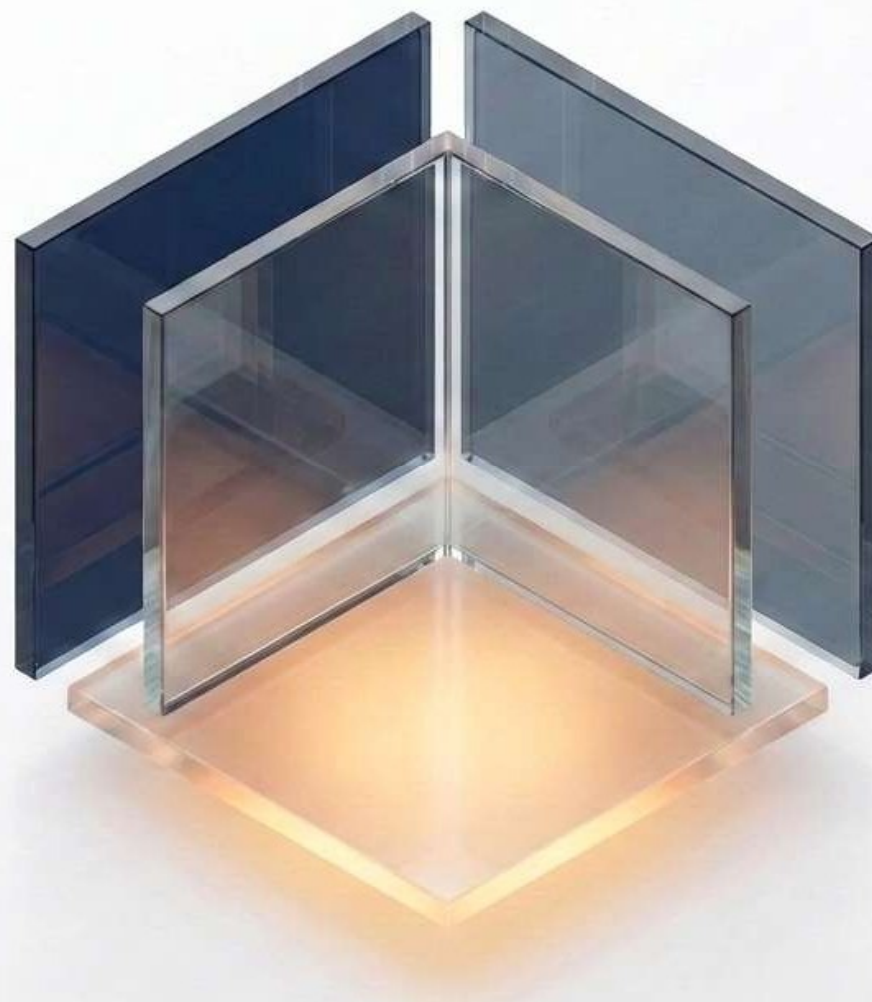
日高 淳	理容美容専門学校におけるカリキュラムマネジメントの リバランスに関する基礎的研究 ―TCE財団教員研究奨励事 業採択テーマに基づく研究計画―	P.1
谷中善典	中小企業が共同職業訓練を利用する要因 ―東京のめっき産業の事例を中心に―	P.25
田中萬年	日本における「徒弟制度」観の系譜―国際的概念と日本的 人間育成観の葛藤―	P.25
田中卓也	波多野鶴吉および川合信水における 模範工場視察に関する考察	P.25

第85回職業教育学会関東地区部会 第1報告（2026年8月8日）

理容美容専門学校における カリキュラムマネジメントの レリバンスに関する基礎的研究

—TCE財団教員研究奨励事業採択テーマに基づく研究計画—

国際文化学園 国際文化理容美容専門学校国分寺校
専任講師 日高淳



※本報告は、一部、生成AIを使用しています。  NotebookLM

本日の発表構成

- 0 自己紹介（キャリアと研究テーマを中心に）
- 1 問題と目的（職種定着と専門学校教育の意義）
- 2 課題と方法（研究対象と研究計画）
- 3 考察と結果への示唆（インプリケーション）

※本発表は、TCE財団研究助成の採択されたものであり、
研究計画の構想発表を目的としています。

0 自己紹介

1975年生まれ。大学で中高（社会科、公民科教諭免許）を取得。就職氷河期前期に、経済誌出版社、広告代理店での職歴後、2005年に国際文化理容美容専門学校国分寺校に入職。理容師免許も取得。事務広報、教務事務を経て、「運営管理」専任講師。多摩地区専修学校協議会事務局として高等学校との連携教育に取り組みながら、専修学校教育の質的向上ならびに充実に資する研究に注力している。

2008年 国際文化理容美容専門学校理容科通信課程卒業（理容師免許）

2013年 法政大学大学院経営学研究科修了（キャリアデザイン学修士）

2022年 筑波大学大学院後期課程満期退学（学校教育学専攻教育方法学）

0 自己紹介 / 研究テーマ（問題意識）

- 【入口】 専門学校と高等学校の接続（キャリア教育、キャリア発達）

- 【内容】 専門学校教育のレリバンス（教育方法・内容の意義）

- 【出口】 専門学校と職業世界の接続（専門職のキャリア形成）

0 自己紹介 / 研究テーマ（研究活動）

- 2009「専修学校を活用したキャリア形成支援の一事例」『キャリアデザイン研究Vol,5』
- 2011「啓発的経験が専門学校入学生のキャリア形成に与える影響」『キャリアデザイン研究』Vol,7（共著）
- 2013「理容美容専門学校におけるキャリア形成支援カリキュラム」『キャリアデザイン研究』Vol,9
- 2015「キャリア形成欲求と理容美容専門学校の学びが初期キャリアに与える影響」
『キャリア教育研究』第33巻第2号
- 2015「理容美容専門学校卒業生の初期キャリア」『キャリアデザイン研究』Vol,11
- 2017「高等教育における職業教育のカリキュラムに関する予備的考察」『教育方法学研究』第18集
- 2018「起業家教育におけるアクティブラーニング型教材の研究」
（共同研究）「紀要（概要）集 学校研究No.33」公益財団法人東京都私学財団
- 2018「ヘアサロン経営ゲームを用いたマネジメント能力育成に関する研究」職業教育・キャリア教育財団
- 2020「職業実践専門課程の質保証・向上のためのカリキュラム開発と評価方法に関する実証的研究」
（共同研究）「紀要（概要）集 学校研究No.36」公益財団法人東京都私学財団
- 2021「職業実践職業実践専門課程における遠隔授業型カリキュラムの構築と教育評価に関する実証的研究」
（共同研究）「紀要（概要）学校研究No.37」公益財団法人東京都私学財団【財団賞受賞】
- 2022「専門学校生のキャリア意識の発達と職種定着ー理容美容専門学校を焦点としてー」（奨励研究）
『キャリアデザイン学研究』Vol,18
- 2023「専門学校における職業教育カリキュラムに関するレリバンスの検討」『教育方法学研究』第19集
- 2024「専門学校におけるキャリア教育へのNIE導入によるアクティブラーニング型教材の開発」
公益財団法人東京都私学財団
- 2025「理容美容専門学校のキャリア教育におけるNIE導入の成果と課題」『教育方法学研究』第20集

0 自己紹介/研究テーマ（研究助成について）

一般社団法人職業教育・キャリア教育財団（TCE財団） 令和8年度 教員研究奨励事業

一般財団法人職業教育・キャリア教育財団（TCE財団）

研究研修事業中央委員会

専修学校教育の振興と専修学校教職員の資質向上に資することを目的として、標記研修事業・研究事業の参加者を募集いたします。

参加者は、一般財団法人職業教育・キャリア教育財団（TCE財団）の研修生・研究生として各事業に参加していただき、その研修・研究の成果は「研究紀要」に掲載し発表します。

各事業の参加者には、研修・研究の成果をできるだけ広くさまざまな形で教育の場に反映し、専修学校教育の充実と向上に寄与されることを期待しております。

0 自己紹介/研究テーマ（研究助成について）

一般社団法人職業教育・キャリア教育財団（TCE財団） 令和8年度 教員研究奨励事業

2. 教員研究奨励

（1）目的

専修学校教職員の研究活動を推進・奨励し、研究成果を編集して広く関係方面へ配布することにより、専修学校教育の向上、充実に寄与することを目的とします。

（2）実施期間

- ・研究を行う期間は1年を超えても構いませんが、本事業の申請の対象とする研究期間は、3か月以上1年以内とし、2会計年度にわたらないものとします。
- ・また、研究成果が取りまとめられる最終年度を申請の対象とします。

I 問題と目的（職種定着と専門学校教育の意義）

- 各種資格取得と関連分野への高い就職率（学卒後の早期離職）
- 職業教育のレリバンスとキャリア意識（専門学校生のキャリア発達）
- 当該学科のカリキュラムマネジメント（専門職のキャリア形成）

I 問題と目的（職種定着と専門学校教育の意義）

パラダイムシフトと説明責任



I 問題と目的（職種定着と専門学校教育の意義）

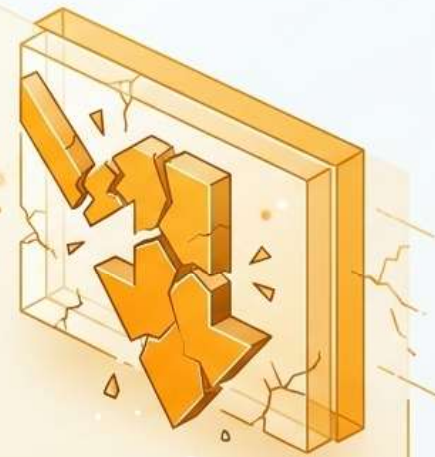
理容美容分野が抱える構造的な「入口と出口のパラドックス」

【入口】 安定した志願需要



美容師・理容師免許への
強い資格志向

【出口】 職業定着の課題



資格取得後の
高い離職率と定着難

資格取得へのモチベーションは高いにもかかわらず、
現場定着に至らない「ミスマッチ」が構造的に生じている

Ⅰ 問題と目的（職種定着と専門学校教育の意義）

【入口】 安定した志願需要

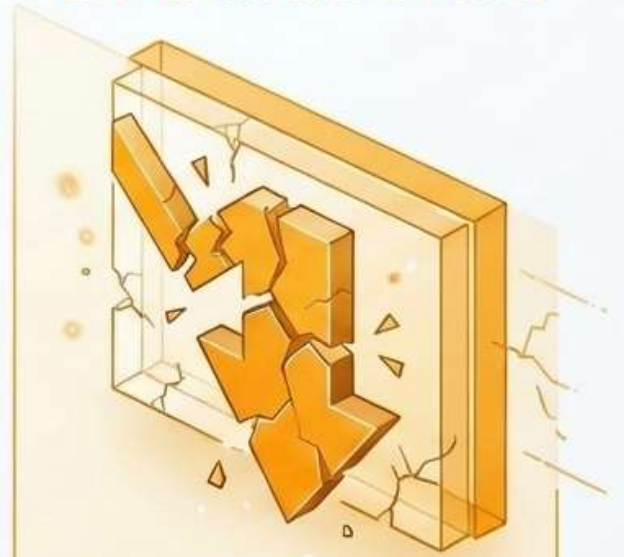


美容師・理容師免許への
強い資格志向

多様化する専門職

- ・理容師
- ・美容師（ヘアスタイリスト・ヘアケアリスト・ヘカラーリスト）
- ・メイクアップアーティスト・特殊メイクアップアーティスト
- ・アイリスト
- ・ネイリスト・マニキュアリスト
- ・エステティシャン・ヘッドスパニスト・ビューティーセラピスト
- ・着付師・髪結師・床山

【出口】 職業定着の課題



資格取得後の
高い離職率と定着難

資格取得へのモチベーションは高いにもかかわらず、
現場定着に至らない「ミスマッチ」が構造的に生じている

I 問題と目的（職種定着と専門学校教育の意義）

制度的規定性と現場のレリバンスの間に生じる「乖離」



I 問題と目的（職種定着と専門学校教育の意義）

本研究の目的

理容美容専門学校における カリキュラムマネジメントのレリバンスを 実証的に解明する

制度の枠組みが存在するか否かではなく、それが現場のニーズや学生の持続的成長にいかに関結しているか（妥当性・今日的意義）を問う。

2 課題と方法（研究対象と研究計画）

目的達成へ向けた3つの研究課題（RQ）のアプローチ



RQ1 (Macro)

法・制度の整理

制度的前提と法的規定性の確認



RQ2 (Meso)

シラバスの比較分析

各校のカリキュラム編成の実態
と独自性の抽出



RQ3 (Micro)

教員・学生の認識

現場における実証的な妥当性の
検証

2 課題と方法（研究対象と研究計画）

**初等中等教育の枠組みを超え、
職業教育の質保証へ応用する**

従来のアプローチ

主に初等中等教育（K-12）の
文脈で論じられ、発展してきた
「カリキュラムマネジメント」論

本研究の新規性

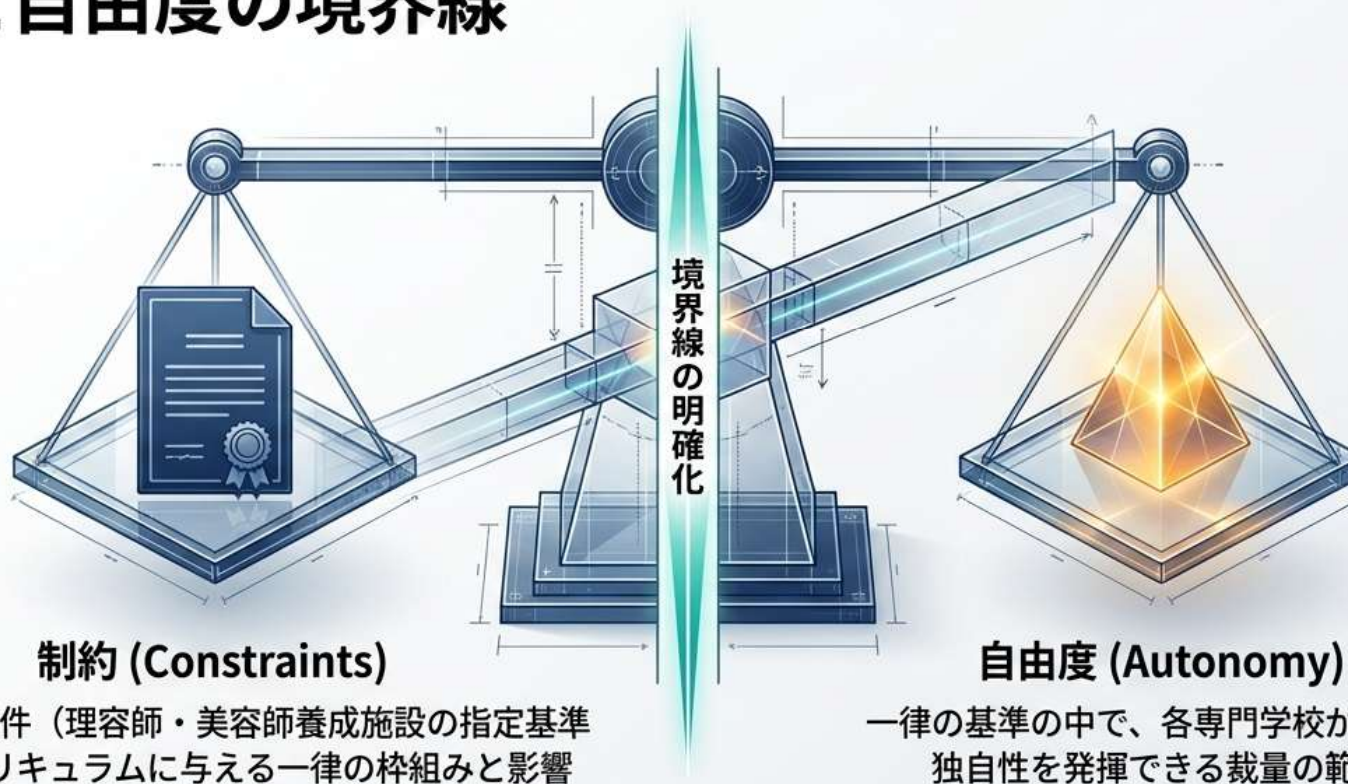
強い法的規定性を持つ
理容美容分野（職業教育）
にこの概念を導入・拡張する

「資格取得の効率化」という従来の視点から脱却し、
制度の壁を超えた「本質的な教育の質保証」への新しい視座を提供する

2 課題と方法（研究対象と研究計画）

マクロ層（制度分析）

【RQ1】 法的規定性と制度的前提がもたらす 制約と自由度の境界線



2 課題と方法（研究対象と研究計画）

【RQ2】 シラバス比較から抽出する
「マネジメントの痕跡」と学校の独自性

メソ層（教育課程分析）



2 課題と方法（研究対象と研究計画）

【RQ3】意図された教育と経験される教育の
合致度を問う現場の「認識」

ミクロ層（実証分析）



2 課題と方法（研究対象と研究計画）

- RQ1, 厚生労働省の審議会の議論（2016年、2022年、2024～25年）

- RQ2, 有意抽出した理容美容専門学校・専門職大学のシラバスの比較検証

- RQ3, 本務校学生（n1400）と教員（n120）に対するアンケート

2 課題と方法（研究対象と研究計画）

- RQ1,厚生労働省審議会の養成課程改善の議論（2025年専門委員会）

2026年8月～9月中間報告までに小括

- RQ2,シラバスの比較検証（理容科、美容科から有意抽出）

2026年9月～12月 年内に分析終了

- RQ3,本務校学生（ $n \div 1400$ ）と教員（ $n \div 120$ ）に対するアンケート調査

2026年12月頃実施 単純集計からの示唆

3 考察と結果への示唆（インプリケーション）

制度・シラバス・認識の三層から描く、
新たなカリキュラムマネジメントの展望



背景と課題

職業教育の再編と、理容美容分野に
「制度と現場の乖離（定着課題）」

アプローチ

「制度・シラバス・認識」の三層
構造レンズによる総合的検証

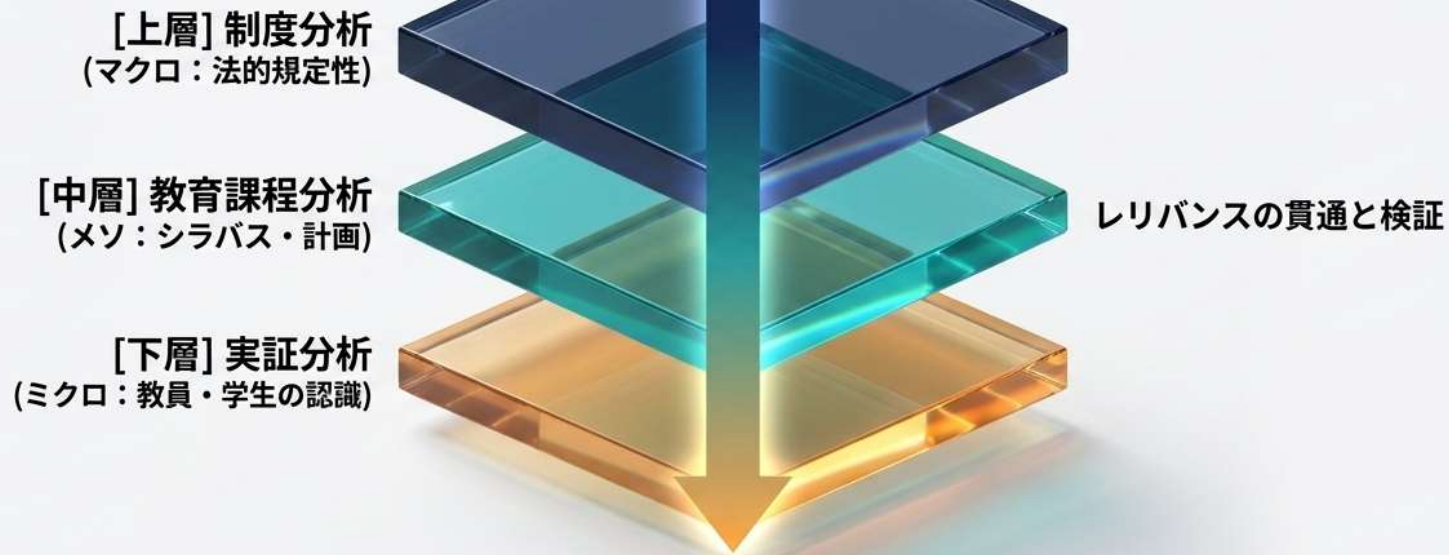
結語

本研究は、理容美容分野における
新たなカリキュラムマネジメントの
あり方を提示し、次世代の職業教育
の質向上に向けた確かな基盤を提供
するものである。

3 考察と結果への示唆（インプリケーション）

分析枠組み：レリバンスの全体像を捉える「三層構造モデル」

「三層構造モデル」



これら三層を独立して扱うのではなく、垂直に貫いて検証することで初めて、
形骸化しない「生きたカリキュラムマネジメント」の全体像が解明される。

3 考察と結果への示唆（インプリケーション）

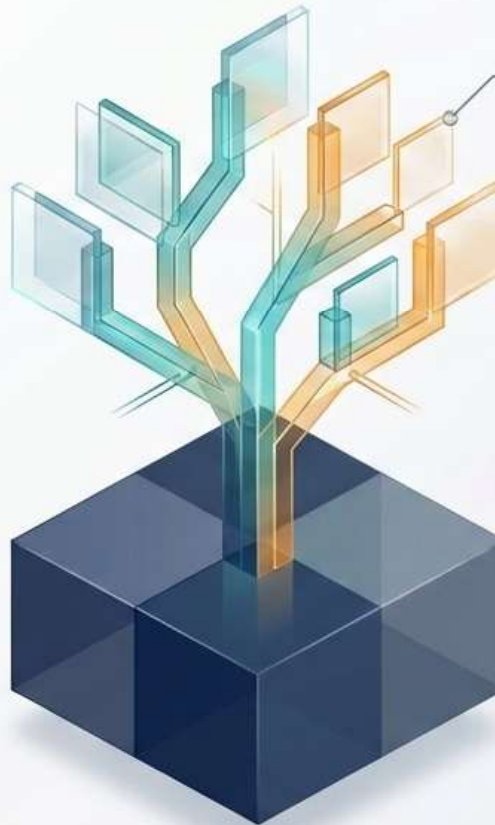
資格取得の壁を越え、
持続的な職業的成長の
基盤を構築する

実践的意義

理容美容分野における客観的な
「教育の質保証」の基盤を構築する

学術的意義

手薄であった「職業教育分野における
カリキュラム研究」に新たな知見と
分析枠組み（三層構造モデル）を蓄積する



カリキュラム マネジメント の視点から

入口（資格取得）の最適化に
とどまらず、
出口（若者たちの職業人とし
ての持続的な定着と成長）に
寄与する

第85回職業教育学会関東地区部会 第1報告（2026年8月8日）

ご清聴いただきありがとうございました。
ご教授、ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

理容美容専門学校における カリキュラムマネジメントの レリバンスに関する基礎的研究

—TCE財団教員研究奨励事業採択テーマに基づく研究計画—

国際文化学園 国際文化理容美容専門学校国分寺校
専任講師 日高淳



※本報告は、一部、生成AIを使用しています。

NotebookLM

谷中善典

「中小企業が共同職業訓練を利用する要因 ―東京のめっき産業の事例を中心に―」

【要旨】

本研究では共同職業訓練の実施を支えている仕組みを、東京のめっき産業を事例に、企業内要因、企業間の相互関係に注目して検討した。①企業内要因としては、共同職業訓練を基礎技術を習得する訓練と位置付けて企業内訓練との連続性をもった重要な人材育成方策と捉えていること、②企業間の相互関係としては、工業組合が基盤となって共同職業訓練を支えるとともに外部機関と密接な連携をとることが挙げられる。

田中萬年

「日本における「徒弟制度」観の系譜－国際的概念と日本的人間育成観の葛藤－」

【要旨】

トランプ政権が人材育成戦略に見習い制度を組み込んだように、欧米では徒弟制度が重視されているが日本では死語に近い。日本で徒弟制度が批判されたのはGHQが規程によらない恣意的弟子養成の方法を徒弟制度として批判したのが端緒であり、労働組合も同調し社会に定着した。英国の教科書では教育訓練の意義が解説されているが、日本では雇用問題の封建性のみを記述し、教育訓練の重要性を看過してきた問題が拡大再生産されている。

田中卓也

「多野鶴吉および川合信水における模範工場視察に関する考察」

【要旨】

本研究では、郡是製糸株式会社の創設に尽力した社長波多野鶴吉と教育担当者川合信水を中心とした模範工場視察の実施とその意義を見いだすことを目的とした。視察では既に東国蚕業視察を皮切りとして群馬を中心に製糸技術、キリスト教を持ち帰った。続けて模範工場視察では鐘紡を最も参考にし工場経営、教育施設、寮舎を参考とした。郡是を模範とした工場の存在を見いだすことが今後の課題である。